2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	人文科学研究所
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	研究成果の社会への還元は、成果の公刊と、研究報告会の公開によって行っている。 学外組織との連携協力による研究の推進・地域交流・国際交流事業への積極的参加については、行っていない。
8-3	研究活動報告会や研究に関する講演会・座談会等の関係活動等一切は、「大東文化大学人文科学研究所規程」及び「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」等に従って、所長と各研究班代表者で構成する研究部会で協議し、さらに学部長・学科長・所長等で構成する運営委員会、並びに教授会で報告したうえで実施している。さらに、研究部会の議事録、運営部会の議事録も配付し保管しているほか、年度ごとの活動の詳細を「人文科学研究所所報」にも掲載して公開している。これらよって、社会連携・社会貢献の適切性を、研究員・学部構成員に止まらず、だれもが検証できる体制となっている。また、これら活動の結果についての報告は、その都度、研究部会・運営委員会・教授会で報告することとなっている。

【効果が上がっている事項】

8-2	本研究所紀要である「人文科学」を年度末に逐次刊行しているほか、研究班単位で年度末に刊行する研究報告書も例年活発で、13 年度は現研究班の半数にのぼる 5 班 6 本を刊行した。これら刊行物は予算上の部数制限があるものの、学外機関に発送し、交換しあっている。また、研究報告会も年二回滞りなく開催して一般に公開しているほか、講演会・座談会等については大学院生や他学科にも公開し来聴を認めている。
8-3	

【改善すべき事項】

8-2	研究成果の公刊、報告会の公開以外では、社会貢献を行っていないため、他の方法による社会連携・社会貢献を検討する。具体的には、研究班ないし研究員単位で可能な講演・講習内容のリストを作成し、社会の要望に応じて研究員が出向いて行うなどの社会貢献のありかたを検討し具体化を進める。また、地域連携・地域貢献の推進方法として、本研究所刊行物一覧情報を板橋区公共施設での掲示や、地域新聞等への掲載を行い、残部の範囲で希望者に無償配布する方法などを検討し、具体化する。
8-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大東文化大学人文科学研究所規程」、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」、「人文科学研究所所報」、研究部会議事録、運営委員会議事録、改善方策経過報告書

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	8-2 講演・講習リストの公開と講師の出前講演等の方法を新たに検討し、社会連携・社会貢献を推進する。	「人文科学研究所所報」、研究部会議事録、運営委員会議事録。講演リストあるいはこれに代わる社会連携・社会貢献推進案の作成。	→					
	8-2 研究成果の刊行物情報を地域にいっそう広めて、希望者に配付する方法を新たに検討し、地域連携・地域貢献を推進する。	研究部会議事録、運営委員会議事録。刊行物一覧掲載情報、あるいはこれに代わる地域連携・地域貢献推進案の作成。	→					
14 年度	8-2 講演リストの公開と講師の出前	研究部会議事録、運営委員会議事録。	→	A				

目標	講演を一案として、社会連携・社会貢献推進の方法について研究部会や研究員座談会等での検討を始める。							
	8-2 刊行物情報を地域に広める方法を一案として、地域連携・地域貢献推進の方法について研究部会や研究員座談会等での検討を始める。	研究部会議事録、運営委員会議事録。	→	A				